

県産材の需要と供給を一体的に創造しよう !!



■表紙写真 題名：霧の朝 撮影場所：川根本町尾呂久保 撮影者： 諸田 耕治 氏（川根本町）

INDEX

本誌はホームページでも掲載しております。是非ご覧ください。URL：<http://www.moritohto.jp>

2 平成28年度森林・林業関係主要予算

3 首長は語る (No.45)
「共生・共創・共働」を合言葉に「人と地域、自然と文化
“夢あふれるまち河津”をめざす河津町

4 支部だより①
海の女から山の女へ

5 支部だより②
東伊豆町の自然にふれて～

6 県庁だより①
～山地災害に備える～

7 県庁だより②
富士箱根伊豆国立公園指定80周年記念事業の開催

8 本部情報(告知板)
平成28年度しずおか森林写真コンクール応募要領

8 事務局だより



平成28年度 森林・林業関係主要予算の概要

平成28年度の森林・林業関係予算が発表になりました。合計額の昨年度対比は10.4%増の114億73百万円となります。主な新規事業は、森林計画課の「世界に通用する森林認証取得促進事業」、林業振興課の「県産材販路拡大事業費」「次世代林業基盤づくり交付金事業」、森林整備課の「次世代林業基盤づくり交付金事業」、自然保護課の「伊豆地域ニホンジカ里山集中捕獲モデル事業」などがあります。また、平成21年度から7年間で76億円の予算を投じてきた森林整備加速化・林業再生事業が平成27年度に終了しました。この事業により、木材生産量が8万m³/年増加、高性能林業機械53台導入、中間土場新設、製材工場の新設・規模拡大、合板・フロア製造工場新設、森林技術者延べ743人育成、非住宅系の木質化推進等が主な成果としてあげられます。林野庁では平成28年度からはTPP関連事業として「次世代林業基盤づくり交付金事業」を新設し予算の確保を図っています。

平成28年度 森林・林業関係主要予算

単位：千円

部局名	担当課	事業名	予算額
経済産業部 森林・林業局	森林計画課	森林整備事務費	34,460
		森林・林業再生推進事業費	500
		世界に通用する森林認証取得促進事業費(新規)	2,700
		森林関係団体事業費助成	5,040
		農山漁村地域整備交付金事業費(森林)	1,274,000
		森の力再生事業費	958,000
		県単独森林整備事業費助成	33,078
	森林計画課 計		2,307,778
	林業振興課	住んでよし しずおか木の家推進事業費助成	200,000
		県産材販路拡大事業費(新規)	7,000
		次世代林業基盤づくり交付金事業(新規)	155,400
		中山間地域林業整備事業費助成(就業機会創出)	14,000
		間伐材撤出奨励事業費助成	124,000
		ビジネス林業促進事業費	32,280
		森林を守り育てる人づくり推進事業費助成	25,000
		林業を支える元氣な担い手支援事業費	16,300
		林業振興総合推進費	12,941
		林業関係団体事業費助成	12,920
		林業近代化資金利子補給金	9
		林業・木材産業改善資金貸付金	40,000
		木材産業等高度化推進資金貸付金	100,000
	林業振興課計		739,850
	森林整備課	スギ等花粉発生源対策事業費	4,000
		三保松原の松林保全技術支援事業費	6,300
		森林整備地域活動支援事業費	96,000
		ふじのくにに木材供給促進事業費助成(新規)	4,000
		森林整備地域活動支援基金積立金	88
		水土保全森林緊急間伐対策事業費助成	20,553
		次世代林業基盤づくり交付金事業費(森林)(新規)	877,000
		造林事業費	862,000
		県営林道整備事業費	498,000
		団体営林道事業費	159,000
		社会環境基盤重点林道整備事業費	117,000
しずおか林業再生プロジェクト推進事業費		70,000	
県単独林道事業費		426,000	
集落間林道整備事業費		74,000	
中山間地域林業整備事業費(山村道路網整備)		162,000	
資源循環林地整備事業費		23,013	
県単独森林病害虫獣総合対策事業費		55,300	
海岸防災林再生苗木供給体制構築事業費		500	
団体営過年災害林道復旧費		51,000	
現年災害林道復旧費		2,000	
団体営現年災害林道復旧費	415,000		
森林整備課 計		3,922,754	

部局名	担当課	事業名	予算額
経済産業部 森林・林業局	森林保全課	保安林整備事業費	18,714
		林地開発許可制度実施費	1,472
		治山事業費	1,145,000
		緊急治山事業費	501,000
		林地崩壊対策事業費	3,000
		国直轄治山事業費負担金	322,000
		県単独治山事業費	957,000
		現年災害治山施設復旧費	888,000
	森林保全課 計		3,836,186
森林・林業局 合計		10,806,568	

上表以外の治山地すべり関係4事業(交通基盤部砂防課予算) 389,000

部局名	担当課	事業名	予算額	
環境政策課	環境政策課	環境教育推進事業費	8,900	
		地球に優しい"ふじのくに"推進事業費	1,919	
	環境政策課 計		10,819	
	環境ふれあい課	環境ふれあい課	県民参加の森づくり推進事業費	5,300
			県有林管理事業費	22,400
			自然ふれあい施設管理運営費	39,300
			自然ふれあい施設管理運営費Ⅱ	99,800
			自然ふれあい施設再整備事業	145,600
			グリーンバンク事業費助成	105,000
			芝生文化創造プロジェクト事業費	9,319
			緑化推進事業費	1,261
			団体事業費補助(公益社団法人静岡県緑化推進協会)	2,480
			団体事業費補助(公益社団法人静岡県造園緑化協会)	1,620
	環境ふれあい課 計		432,080	
	自然保護課	自然保護課	伊豆地域ニホンジカ里山集中捕獲モデル事業費(新規)	25,900
			特定鳥獣安全捕獲特別対策事業費	5,000
			生物多様性地域戦略策定事業費	22,800
			野生鳥獣緊急対策事業費	110,100
			富士山環境保全推進事業費	21,600
			自然環境保全総合対策事業費	12,643
野生生物保護管理推進事業費			25,400	
自然保護課 計		223,443		
環境局 合計		666,342		
森林・林業関係予算 合計		11,472,910		

首はる 長語

● No.45

「共生・共創・共働」を合言葉に「人と地域、自然と文化
“夢あふれるまち河津”」をめざす河津町

河津町長 相馬宏行



はじめに

河津町といえば、まず一番に思い浮かぶのが、ひと足先に春を迎える「河津桜」ではないでしょうか。その可憐な美しさに魅せられ、開花時期には約90万人の観光客が訪れます。今回は河津町の町長さんにお話を伺いました。

河津町の自慢

伊豆半島の東海岸南部に位置する河津町は、とても温暖な気候です。天城山系を源とする河津川は山と海をつなぎ、先人たちはこの清流に沿って豊かな文化を築いてきました。地理的には国道や伊豆急行線が通り、近い将来伊豆縦貫自動車道が開通予定であるなど伊豆半島南部の交通の要衝であります。河津桜や温泉などの観光地としてはもちろんのこと、この利便性は子育てにおいても有効です。人口は7700人を切り、人口減少は進んでいます。その速度はゆるやかで、若い世代が移り住んできています。合計特殊出生率も高く、県内で4位を誇ります。

河津町の将来像

河津町では第4次総合計画で「人と地域、自然と文化“夢あふれるまち河津”」を将来像に据え、施策を行っています。まちづくりの合言葉は、共生・共創・共働。町民と行政が一体となってまちづくりを行う、これが理想の姿です。行政主導ではなく、町民からの声に基づく施策を大事にしていきたいと思っています。

そして総合計画の言葉の中に文化とありますが、私は「歴史を顧み、伝統を守

り、文化を育まない町に町の発展はない」といつも口にしてしています。人口減少の中、歴史や伝統が受け継がれていくためにも、今の子どもたちに歴史や伝統を伝えながら文化を育み、町の発展に取り組んでいけたらと思っています。

河津平安の仏像展示館

平安時代、華やかな仏教文化が花開いた河津町。多くの仏像を伝える河津町の中で、最も古く、学術的、美術的にも重要な仏像が多数現存するのが谷津地区の南禅寺です。平安から受け継がれるこれらの仏像は、谷津の人々が代々大切に守り続けてきたものです。この貴重な仏像群を後世まで伝えるため、2013年2月に伊豆ならんだの里河津平安仏像展示館が開館しました。中央に展示されているご本尊は、平安時代前期に遡る静岡県最古の仏像「薬師如来坐像」です。カヤの一木造で、当時を今に伝える大変貴重な仏像です。その他にも地藏菩薩立像、神将立像など、合わせて24体の平安仏が館内に安置されており、まさに仏教美術の宝庫といえるでしょう。



▲伊豆ならんだの里 河津平安仏像展示館

河津七滝（かわづななだる）

河津七滝は、河津川の約1.5kmの間に連なる7つの滝の総称で、滝のことを「タル」と呼ぶのも特徴です。大きなものでは30mの落差があり、美しい滝の景色を巡ることができます。七滝沿いは河津七滝温泉の温泉街にもなっており、観光のメインスポットとして、多くの観光客で賑わっています。写真は七滝のひとつ、初景滝。川端康成の名作「伊豆の踊子」

の像が置かれ、この名作の足跡を感じることができます。



▲河津七滝「初景滝」

峰温泉大噴湯公園

かつては東洋一と呼ばれた「峰温泉の大噴湯」、大正15年11月22日、爆音と共に地上約50mの高さに湯を噴き上げ誕生しました。以来、ひとときも絶えることなく600ℓ/分100℃の温泉を噴き上げ続けています。現在は約30m噴き上がり、迫力満点の大噴湯。河津町の豊富な温泉資源も感じられ、この温泉を使った人気の大噴湯たまご（ゆでたまご）も楽しみいただけます。

河津町の森林整備

天城はブナ林が多く、その落葉が養分となり海に恵みをもたらします。河津町では漁業の人が植樹する動きもあり、山と海が連携した森林整備が行われています。また、昨年度から、登尾町有林で利用間伐を始め、6.4haの間伐と約530㎡の間伐材の売払いを行ったところです。今回の利用間伐の成果として、森林の防災機能・公益的機能を高めるとともに、今まで切捨てられていた間伐木などの森林資源を有効に活用し、町の財源として利用できる道筋ができました。今年度も同規模の計画を行う予定で、今後も続けていけたらと考えています。

おわりに

83%の森林率を誇る河津町。建築にも思いのある河津町長は、天城山麗の風土で育った木を使い、100年も200年も受け継がれる3代かけての家づくりについても熱弁してくださいました。



▲河津桜祭り

支部だより①

海の女から山の女へ

浜松市産業部林業振興課 宮崎 真理

浜松市からは「山の女」として活躍していた宮崎さんに思い出を綴っていただきました。

山々に緑の息吹を感じ、桜のつぼみも膨らみ始めた今日この頃。私の林業振興課での7か月という短い在職期間が終わろうとしている。

これは、すべてが新鮮で、楽しく、充実した私の林業振興課での日々を紹介する回想録である。

平成27年7月、2課2事業所で行っていた森林・林業業務をより専門性をもって推進するため、浜松市に新設の「林業振興課」が誕生した。そして、直後の8月12日、私に突然の兼務辞令が出た。

私は、浜名湖を見渡せる小さな町の海の家を経営する両親のもとに生まれ育ち、「海の女」として〇十年を過ごしてきた。その私が、「山の女」へと足を踏み入れることになるとは。

何の知識もなく、不安の中で始まった昨年の夏。林業振興課の業務は多岐にわたる。保育園や幼稚園を訪問し、森の仕組みを説明したり、ヒノキ・スギからできた積み木で遊んだりした森林環境教育。木に触れることが少なくなっている子どもたちの嬉しそうな顔が印象的だった。傷ついた野生動物の捕獲にも度々出動した。ハクビシン・タヌキなどの格闘は忘れられない経験だ。

9月に開催された「FSC フォレストウィーク 2015」では、天竜材で作る「マイ箸ワークショップ」をイオン葛西店（東京都江戸川区）で開催。11月には日本最大の住宅・建築関連専門展示会「ジャパンホームショー 2015」で天竜材（FSC 認

証材）のPR。同月下旬には「浜松市沿岸域防潮堤の市民植栽」の実施等、多くのイベントにより、市内外に浜松市の天竜材を紹介する機会に恵まれ、課員一丸となって取り組めたことは、良き思い出である。



▲「FSC フォレストウィーク2015」での「マイ箸ワークショップ」の様子。

浜松市の森林は、「日本三大人工美林」のひとつ「天竜美林」として名高く、平成22年3月にFSC認証を取得。6年が経過した現在、市町村別取得面積では日本一に成長し、FSC 認証材の供給体制も構築されてきた。周知のとおり2020年東京オリンピックの開催が決定し、現在、国際認証である天竜材を売り出す絶好のチャンスが訪れている。私は、林業振興課へ配属されるまでFSC



▲天竜森林組合のみなさんと。

認証についての知識が全くなかったが、今後、日本一の取得面積を誇ることを、もっと市民に周知することが必要だと感じている。

一年に満たない在籍だったが、仕事への熱き想いを持った同僚たちに囲まれ、常に助けてもらいながらも「山の女」として働くことができた。上司や仲間には感謝の気持ちでいっぱいであり、この場を借りてお礼申しあげたい。

今後、林業振興課には、東京オリンピックでの天竜材使用、輸出等、様々な重要案件が計画されており、それを残して異動するのは寂しい。ただ、私の仲間たちなら、きっとこれらを実現させてくれるだろう。

私は、それを山の女を経験した海の女として、精一杯応援していきたい。

四年後、林業振興課の仲間たちと一緒に、天竜材を使用した東京オリンピック施設を見学している姿を想像しながら…



▲林業振興課の仲間と。

(この原稿は平成28年3月に頂いたものです。
山林協会事務局)

支部だより②

東伊豆町の自然にふれて～

東伊豆町 建設産業課

東伊豆町からは、なだらかな高原の魅力とその活用事例を紹介いただきました。

東伊豆町について

東伊豆町は、伊豆半島東海岸の中央部に位置し、東南は相模灘に面し、東北は伊東市赤沢に面しています。北西は天城連山の万二郎・万三郎岳を境に伊豆市に接し、南西は河津町に接しています。地形は主として丘陵をなし、海に面していくつかの平地が点在している風光明媚な観光の町です。「雛のつるし飾り」や「稲取キンメ」を代表とする様々な観光要素に加え、6つのバリエーション豊かな温泉郷によって形成される東伊豆町には、毎年多くの観光客が訪れ、1年を通じて賑わいを見せております。

稲取高原

東伊豆町では近年の多様化した観光ニーズに応えるため、稲取高原の再編整備に取り組んでおります。稲取高原には、動物と触れ合える「伊豆アニマルキングダム」や「稲取ゴルフクラブ」等のアクティブな施設と、「稲取ふれあいの森」や「クロスカントリーコース」、「東伊豆風力発電所」等の自然が満喫できるスポットが充実しており、訪れる観光客だけでなく地元の町民まで総合的に楽しめるエリアとして愛されてきました。東伊豆町クロスカントリーコースのスタート地点付近には、全長400メートルにわたり桜並木（ソメイヨシノ）が続き、花見の宴が開催され大いに賑わいます。

その他にも稲取高原に魅力を付加する場所がたくさんあります、なかでも風力発電所付近の公園、広大な

芝生広場、ツリーハウス、親水広場等です。こうした盛りだくさんの稲取高原の魅力ぜひ見に来ていただきたいと思っております。



▲クロスカントリーコースの桜



▲親水広場(稲取高原)

細野高原

東京ドーム26個分という高原に、春は、ワラビやゼンマイなどの山菜が自生し、秋には、広大なすすき野原が褐色の色合いをかもします。また、山のいたる所から相模灘、伊豆七島も一望でき、一見の価値があります。秋のすすきの時には知られざる海すすきの絶景散歩が楽しめます。



▲細野高原の「すすき」

相模灘を一望の「東伊豆海のみえる農園」

稲取高校から西に400mほど離れた高台に、平成28年4月より日帰り型市民農園が、また、平成29年4月には、滞在型市民農園のオープンを予定しています。市民農園からは相模灘や伊豆七島が望め、大変景色のよい場所となっております。野菜を作るのみならず、市民農園を拠点としたイベント等を開催することにより、地域住民と都市住民との交流の場になればと考えています。

ぜひ伊豆にお立ち寄りの際には、東伊豆町のレジャー施設はもちろんのこと、大自然にふれあい、楽しい思い出を作っていただければと思います。



▲東伊豆海のみえる農園

県庁だより①

～山地災害に備える～

経済産業部 森林・林業局 森林保全課

森林保全課からは、住民と連携した山地災害の予防に関する取組を紹介いただきました。

近年、台風の大型化や局地的豪雨の増加に伴い、全国各地で総雨量の記録更新が相次いでおり、紀伊半島や伊豆大島、広島などではこれまで見られなかった規模・形態の崩壊が発生しました。

県では、これまでも治山事業によって荒廃溪流・山腹崩壊地の復旧・予防対策を行ってきましたが、県民の命と暮らしを守るためには、ハード対策にソフト対策を連携させ、総合的に山地災害への備えを強化する必要があります。今回は、ソフト対策として県の実施する取組を紹介します。

山地災害危険地区の情報公開

県では、山腹崩壊、崩壊土砂流出及び地すべり等による災害が発生する恐れのある地区について、ホームページの「静岡県森林情報共有システム」に掲載しています。山地災害に備えるため、お住まいの地域が該当しているかご確認をお願いします。



▲静岡県森林情報共有システム画面

治山パトロール

今年度も梅雨期を控えた6月1日～15日に「治山パトロール」を県

内一斉に実施します。治山パトロールは昭和63年度から続いており、既存治山施設の機能点検や周辺保安林・山地災害危険地区の調査と併せて、住民の方々への山地災害危険地区マップ・パンフレット等の配布や、タウンミーティングの開催、治山セミナーの実施など防災意識の向上を図る普及啓発活動を行っています。



▲避難経路についての説明風景

治山セミナー

治山パトロールの活動の一環として、平成13年度から小学生や幼稚・保育園児等を対象に、森林の働きや治山事業に関する説明、治山施設の見学会、体験学習等「治山セミナー」を実施しています。平成27年度は森林の持つ公益的機能や山地災害、治山事業に関する基礎的な内容の講義に加え、「植生土のうを作製」(小山町)や「工事現場見学会」(川根本町、富士宮市)等を実施しました。

平成27年度の実施状況

月日	開催場所	参加者
6/5	浜松市立城西小学校	児童17人
6/11	小山町立須走小学校	児童46人
9/25	川根本町立本川根小学校	児童28人
10/23	富士宮市立袖野中学校	生徒27人
11/19	川根本町立中川根第一小学校	児童15人



▲セミナー実施風景 (小山町)



▲セミナー実施風景 (浜松市)

山地災害防止講習会(仮称)

平成28年度から、新たなソフト対策として山地災害の恐れのある地域の住民を対象に、山地防災情報を周知するための講習会を行います。夏以降、実施して参りますので、ご承知ください。(平成28年度は各農林事務所1回程度を予定)

その他

これらに加え、災害時における応急対策業務のため、災害協定締結団体を対象とした講習会や、県・市町の治山業務に従事する職員を対象とした研修会を実施し、台風や南海トラフ等巨大地震発生に備えて参ります。山地災害に備えるためには市町や関係団体の協力が必要不可欠ですので、今後も御理解と御協力をお願いいたします。講習会や治山セミナー等に関する御要望やお問い合わせは最寄りの農林事務所へお願いします。

県庁だより②

富士箱根伊豆国立公園指定 80周年記念事業の開催

くらし・環境部 環境局 自然保護課

自然保護課からは、今年3月～12月にかけて実施する記念事業等についてご紹介いただきました。

富士箱根伊豆国立公園は、昭和11年2月に富士箱根国立公園として、全国9番目の国立公園に指定されました。

その後、伊豆半島や伊豆諸島地域の編入があり、今年2月に指定80周年を迎えました。

富士箱根伊豆国立公園指定経緯

昭和11年(1936年)2月

「富士箱根国立公園」の指定

昭和30年(1955年)3月

伊豆半島地域を編入し、「富士箱根伊豆国立公園」に名称変更

昭和39年(1964年)7月

伊豆諸島地域を編入

当国立公園は、東京都、神奈川県、山梨県、静岡県との1都3県にまたがり、「富士山」、「箱根」、「伊豆半島」、「伊豆諸島」の4地域で構成される広大な地域が指定されています。自然公園法に基づく国立公園として、優れた自然の風景地が保護されるとともに、その利用の増進が図られてきたことにより、現在では、日本のシンボルであり世界文化遺産である富士山をはじめ、世界ジオパークへの加盟を目指して活動している伊豆半島ジオパークなどの世界クラスの宝が国立公園を構成する重要な資源となっております。

また、これらの多くの美しい景観のほか、温泉を有するなどの多くの魅力を持つとともに、首都圏に近いことなどから、全国の国立公園への

来訪者数3億5,500万人のうち約3分の1に当たる1億2,100万人の来訪者を誇る日本を代表する国立公園になっております。

この80周年の節目の年に、環境省、東京・神奈川・山梨・静岡の関係4都県及び36市町村は、80周年を祝賀するとともに、国立公園の自然を将来に引き継ぎ、すべての利用者にとってその魅力を深く感じてもらうことを目的に、富士箱根伊豆国立公園指定80周年記念事業実行委員会を組織し、平成28年3月6日開催の記念式典を皮切りに、各種の記念事業を実施しております。

平成28年3月6日の記念式典は、丸川環境大臣、川勝静岡県知事及び関係市町村長などの出席のもと、次のような内容で開催しました。

基調講演・事例報告・パネルディスカッションでは、「外国人観光客等の新しい利用者層の視点から富士箱根伊豆地域の自然の魅力を再発見してもらうこと」をテーマとした発表があり、功労者表彰では、当国立公園の保護と適正な利用に関し顕著な功



▲「富士箱根伊豆国立公園指定80周年記念式典(パネルディスカッション)」(沼津市 プラサヴェルデ)

績があった81の個人・団体の表彰を実施したほか、記念宣言では、「富士箱根伊豆国立公園の自然を将来の世代に引き継ぎ、国内外の利用者に対し魅力的な国立公園体験を提供していくために、富士山地域・箱根地域・伊豆半島地域・伊豆諸島地域の一層の連携を図り、行政機関をはじめとする関係者の共通認識を構築すること」を誓いました。あわせて、ポスター展示も行われ、当地域のNGO等による発表が行われました。

また、4月29日には、新宿御苑(東京都新宿区)で開催の「2016新宿御苑みどりフェスタ」において、ブースを出展し、富士箱根伊豆地域の情報発信と80周年記念事業を首都圏の方々にアピールするほか、今年12月までの間、実行委員会を構成する関係行政機関において、様々な関連の記念事業が開催されます。



▲「富士箱根伊豆国立公園指定80周年記念式典(ポスター展示)」(沼津市 プラサヴェルデ)

記念事業については、環境省の富士箱根伊豆国立公園ホームページ内の特設ページをご覧ください。

<http://www.env.go.jp/park/fujihakone/effort/80th.html>

今回の記念事業を契機として、富士箱根伊豆国立公園を地域の宝として再認識し、環境省、4都県及び36市町村の行政のみならず、観光事業者、交通事業者、山小屋関係者、自然を案内するガイド、さらには、農林水産業を営む人や、地域に暮らす人も含めて、地域の多様な関係者が協働して、富士箱根伊豆地域の魅力ある自然、景観、文化を未来に継承していく取り組みを進めてまいりますので、皆様におかれましても御理解と御協力をお願いいたします。

告知版

第33回「しずおか森林写真コンクール」

第33回

平成28年度 しずおか森林写真コンクール しずおかの素晴らしい森林を!

題 材 静岡県内の森林に関わる作品

募集期間 平成28年4月1日～8月31日

ぜひ、ご応募
ください。

平成27年度
優秀作品より



森林の向こう

最優秀賞 上野 祐司

(森林の景観)



森林体験を楽しむ

(森林体験やレクリエーションの様子)
特選 綾木 恵子



高所作業

特選 加藤 留子

(森林整備や森林土木工事の状況)

主催：公益社団法人静岡県山林協会 共催：公益社団法人静岡県緑化推進協会

後援：静岡県、静岡県教育委員会、静岡新聞社・静岡放送、中日新聞東海本社、静岡県写真材料商組合

詳しくは裏面の応募要領をご覧ください。



事務局だより

4月16日(土)に熱海市主催の「自伐型林業フォーラム in 熱海」に参加しました。全国的に取り組みが増えていく自伐型林業を熱海市で進めようという趣旨で開催されました。参加者90名のうち半数以上が市外の方でした。

若い方も多く、自分で木を伐って稼ぐことに関心が高いことを改めて認識しました。齊藤市長の力のこもったあいさつで始まり、パネラーの森本副市長も自伐型林業推進の狙いや新規参入者には市有林約800haの中で自伐型林業を実施してもらおう計画であることも表明し、参加者も大いに盛り上がりま

応募要領

☆題 材 静岡県内の森林に関わる作品で、「森林の景観」、「林業・木材産業で働く姿」、「森林整備や森林土木工事の状況」、「森林体験やレクリエーションの様子」及び「森林と一体となった山村や生活の風景」など森林や林業の素晴らしさ、大切さの啓発に役立つものを対象とします。

☆資金等

最優秀賞	(静岡県知事賞)	1点	賞状、賞金7万円
特 選	(静岡県山林協会賞)	2点	賞状、賞金3万円
ク	(静岡県緑化推進協会理事長賞)	1点	賞状、賞金3万円
準特選	(静岡県山林協会賞)	4点	賞状、賞金1万円
ク	(静岡県緑化推進協会理事長賞)	1点	賞状、賞金1万円
入 選	(静岡県山林協会賞)	20点	賞状、賞金5千円

※(賞金は、公益社団法人静岡県山林協会、公益社団法人静岡県緑化推進協会提供)

■作品は、平成27年9月以降に静岡県内で撮影した未発表作品に限ります。

■応募点数は一人5作品まで

■サイズは四つ切(ワイド不可)。カラー・白黒、3枚以下の組写真可、デジタル可)

■作品の裏面に、題名、撮影地、撮影日、氏名等を記した下の応募票を添付して下さい

■入賞作品、原版等の著作権は、主催者・共催者に帰属します

■被写体人物の肖像権侵害の責任は負いかねます。応募に際しては承諾を得ること

■入賞者は、指定された日までに原版(ネガ、CD等)を提出して頂きます

■応募作品は、返却いたしません

☆締 切 平成28年8月31日(水)(当日消印有効)

☆提出先 公益社団法人静岡県山林協会 又は 静岡県写真材料商組合加盟店

☆審 査 主催者・共催者及び主催者が委嘱する審査員で実施

☆審査結果 平成28年9月末までに入賞者宛て通知予定

☆授賞式 平成28年10月以降、静岡市内において表彰します(予定)。

☆展示等 入賞作品は、公共施設での展示や主催・共催者の広報紙等に掲載し、森林・林業啓発に活用又入賞以外の作品についても森林・林業啓発の目的で活用する場合があります

☆主 催 公益社団法人静岡県山林協会

〒420-8601 静岡市葵区追手町9-6 県庁西館9階

TEL: 054-255-4488

E-mail: sanrinky@vega.ocn.ne.jp

☆共 催 公益社団法人静岡県緑化推進協会

☆後 援 静岡県、静岡県教育委員会、静岡新聞社・静岡放送、中日新聞東海本社、静岡県写真材料商組合

した。雇用創出や移住者の増加などが期待され、これからの展開が楽しみです。

公益社団法人

「森と人」 静岡県山林協会

編集・発行 静岡市葵区追手町9-6 県庁西館9F

TEL:054-255-4488/FAX:054-255-4489